

産地生産基盤パワーアップ事業評価書

| 都道府県名 | 事業実施地区数<br>ア | 評価対象外地区数<br>イ | 評価対象地区数<br>アーイ | 成果目標の平均達成率 | 評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数 | 地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無 | 【参考】評価対象地区数のうち、達成率80%未満の地区数 | 都道府県による総合所見  | 地方農政局等による総合所見   |
|-------|--------------|---------------|----------------|------------|-------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|--|---|
| 青森県   | 4            | 3             | 1              | 0.0%       | 1                                   | 有                         | 1                           | <p>「販売額又は所得額の10%以上の増加」に向けた取組について、令和5年が評価年である1産地では、一部で苗の供給の遅れがあったほか、萎凋病やコガネムシ等の病害虫の影響等により単収が落ち込み、目標を達成できなかった。</p> <p>今後は、関係機関と連携して、かん水・施肥等の基本技術について引き続き指導するほか、土壌病害への対応として土壌消毒を推進する等、単収向上に向けた取組を実施するよう指導する。</p>  | <p>県の成果目標の平均達成率は0%であり、成果目標を達成していない。</p> <p>評価対象1地区について、成果目標は販売額の増加で、達成率がマイナスとなっている。</p> <p>未達成の主な要因は、苗の供給の遅れや病害虫の発生により生産量が減少したことによるものである。</p> <p>成果目標の達成率が90%未満となった1地区については、県の改善措置を踏まえ、地域協議会等における目標達成に向けた取組の改善が必要である。</p>             |
| 岩手県   | 13           | 8             | 5              | 0.0%       | 5                                   | 有                         | 5                           | <p>令和4年度目標の5地区の産地パワーアップ計画について評価を行ったところ、全てにおいて目標達成に至らなかった。</p> <p>評価対象事業については、全ての成果目標を販売額の増加としているが、その未達成の主な要因は、果樹では主力品種の単価低迷や、花ぶるいの発生による結実不良、野菜では夏季の天候不順の影響による生育不良や、病害・障害果の発生による出荷量の伸び悩み等となっている。</p> <p>今後は、基本技術(栽培管理、病害虫防除、圃場選定、排水対策)の徹底のもと、各産地の課題を明確にし、地域協議会と連携しながら課題解決の支援を行い、早期目標達成に向け取り組んでいく。</p> | <p>県の成果目標の平均達成率は0%であり、成果目標を達成していない。</p> <p>評価対象5地区すべてが達成率90%未満の地区であり、当該成果目標はすべて販売額の増加である。</p> <p>未達成の主な要因は、降雨などの気象の影響による生育不良や病害の発生等による出荷量の減少などとなっている。</p> <p>成果目標の達成率が90%未満となった5地区については、県の改善措置を踏まえ、地域協議会等における目標達成に向けた取組の改善が必要である。</p> |

| 都道府県名 | 事業実施地区数ア | 評価対象外地区数イ | 評価対象地区数アーイ | 成果目標の平均達成率 | 評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数 | 地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無 | 【参考】評価対象地区数のうち、達成率80%未満の地区数 | 都道府県による総合所見  | 地方農政局等による総合所見  |
|-------|----------|-----------|------------|------------|-------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|--|--|
| 宮城県   | 7        | 5         | 2          | 96.7%      | 0                                   | 無                         | 0                           | <p>評価対象地区である2地区のうち、1地区は目標達成となり、1地区は大豆では目標達成したものの、水稲は概ね達成となった。</p> <p>このため、都道府県平均達成率は96.7%となり、概ね達成となった。</p> <p>概ね達成となった水稲については、直播栽培によるコスト削減効果が発揮されるよう指導を徹底していく。</p> <p>また、目標達成した1地区についても、直播面積は目標に満たないことから直播栽培を拡大できるよう指導を徹底していく。</p>   | <p>県の成果目標の平均達成率は96.7%で、成果目標を達成している。</p> <p>評価対象の2地区は、成果目標は生産コストの削減で、達成率90%以上となっている。</p> <p>今後も継続的な状況の把握に努め、引き続き取組を進めていただきたい。</p>   |
| 秋田県   | 27       | 17        | 10         | 41.5%      | 8                                   | 有                         | 7                           | <p>令和4年度は県北・中央地域を中心に大雨の影響があり、露地品目(えだまめ、ねぎ、キャベツ、にんにく、だいこん、きゅうり)を中心に単収が低下したことから、目標未達となった計画があった。そのため、平年どおりの気象条件であれば達成率がある程度改善するものと思われる。</p> <p>一方で、近年は気象災害が増加しており、毎年のように大雨や暑熱等の気象災害が発生していることから、排水対策の徹底等、耕種的対策を中心に指導を行い、災害に強い生産体制の整備によりさらなる改善を図る。</p> <p>菌床しいたけの計画については計画策定時に後継者等の有無を確認しているものの、生産コストや燃料の高騰も相まって廃業する生産者がおり、作付面積自体が減少したことにより、計画が未達となった。安定生産可能な空調栽培を推進することで産地面積を保持するとともに順調に計画を達成している取組主体があることから、優良事例の横展開を図り、単収や品質の高位平準化を図ることで目標達成に近づけていく。</p> | <p>県の成果目標の平均達成率は41.5%であり、成果目標を達成していない。</p> <p>評価対象10地区中、達成率90%以上が2地区、達成率90%未満が8地区である。</p> <p>達成率90%未満の地区の成果目標は、すべて販売額の増加で、これらの未達成の主な要因は、面積が計画どおり拡大できなかったこと、高温や長雨等の気象状況の影響による生産量の減少・品質の低下、新型コロナによる販売不振などとなっている。</p> <p>成果目標の達成率が90%未満となった8地区については、県の改善措置を踏まえ、地域協議会等における目標達成に向けた取組の改善が必要である。</p> |

| 都道府県名 | 事業実施地区数ア | 評価対象外地区数イ | 評価対象地区数アーイ | 成果目標の平均達成率 | 評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数 | 地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無 | 【参考】評価対象地区数のうち、達成率80%未満の地区数 | 都道府県による総合所見   | 地方農政局等による総合所見   |
|-------|----------|-----------|------------|------------|-------------------------------------|---------------------------|-----------------------------|---|---|
| 山形県   | 69       | 46        | 23         | 42.8%      | 16                                  | 有                         | 16                          | <p>対象地区23件のうち未達成は16件で、野菜、水稻等を対象とし、コスト削減、販売額増加または労働生産性向上を目標とする計画において未達成がみられた。</p> <p>水稻においては、米価の下落、資材価格の上昇、面積拡大が計画を下回る等の要因により、目標とするコスト低減、販売額増加または労働生産性向上を達成できない計画があった。収量向上や販売先の確保、効果的な防除や圃場集積によるコスト低減の取り組み等を徹底するよう指導していく。</p> <p>野菜においては、令和4年6月の高温や8月の豪雨の影響による生産量減等の影響により販売額が伸びない計画があった。気象災害対策や生産量のさらなる拡大などを指導していく。</p> <p>その他の品目では、コロナ禍による需要が減少が未達成の要因となっていた。今後の需要増を見込み、安定生産や面積拡大に向け指導していく。</p> | <p>県の成果目標の平均達成率は42.8%であり、成果目標を達成していない。</p> <p>評価対象23地区中、達成率90%以上が7地区、達成率90%未満が16地区である。</p> <p>達成率90%未満の地区の成果目標は、生産コストの削減が2地区、販売額の増加が10地区、労働生産性の向上が4地区である。これらの未達成の主な要因は、生産コスト削減では、生産資材の高騰によるコスト増である。販売額の増加では、面積が計画どおり拡大できなかったこと、降雹や大雨等の気象状況の影響による生産量の減少・品質の低下、新型コロナによる販売不振などが要因である。労働生産性の向上では、公共事業や基盤整備により栽培できなかった圃場があること、新型コロナによる販売不振や単価の低下などが要因である。</p> <p>成果目標の達成率が90%未満となった16地区については、県の改善措置を踏まえ、地域協議会等における目標達成に向けた取組の改善が必要である。</p> |
| 福島県   | 25       | 18        | 7          | 85.7%      | 1                                   | 有                         | 1                           | <p>評価対象7地区のうち、6地区において目標を達成した。</p> <p>集出荷コストの削減を目標とした地区については、施設の再編整理によりこれまで借用していた低温倉庫に関するコストを削減したことで成果目標を達成した。</p> <p>販売額及び労働生産性の向上を目標とした地区については、施設・機械等の導入により、大規模化や高品質化が図られたことで販売額がしたことで目標を達成した。</p> <p>なお、未達1地区については、事業効果により労働時間は減少したものの、栽培技術の問題で単収が向上していないことから、関係機関と連携し、技術指導を継続していく。</p>   | <p>県の成果目標の平均達成率は85.7%であり、成果目標を達成していない。</p> <p>評価対象7地区中、達成率90%以上が6地区、達成率90%未満が1地区である。</p> <p>達成率90%未満の地区の成果目標は、労働生産性向上で、未達成の主な要因は、連作障害や除草時期の遅れにより収量が低下したことによるものである。</p> <p>成果目標の達成率が90%未満となった1地区について、県の改善措置を踏まえ、地域協議会等における目標達成に向けた取組の改善が必要である。</p>   |